

県央稲作情報 No.8

令和8年7月21日
三条農業普及指導センター
電話：0256-36-2340

高温に負けないための穂肥施用！

出穂期は3日程度早まる見込み
今年も高温予想、確実な穂肥で後期栄養確保を！

1 生育調査結果（7月21日現在）

コシヒカリ 草丈：やや長 茎数：並 葉数：やや早 葉色：やや濃

品 種	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉数 (葉)		葉色 (SPAD)	
	本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
こしいぶき	81	105%	434	101%	12.9	+0.2	37.2	+0.2
コシヒカリ	85	109%	378	97%	12.5	+0.5	35.2	+1.2
新 之 助	71	104%	531	111%	12.8	+0.6	35.0	+0.5

調査点数：こしいぶき 5、コシヒカリ 13（分施・一発含）、新之助 4（JA、普及センター調査）
指 標 値：コシヒカリ、新之助とも分施栽培の数値

2 今後の天気（7月18日～8月17日：新潟地方気象台7月16日発表）

向こう1か月の平均気温は、高い確率 70%。

降水量は、平年並の確立が 40%。日照時間は、平年並の確率が 50%です。

3 栽培管理のポイント

（1）予想出穂期と穂肥施用の時期・窒素成分量のめやす

品 種	予想 出穂期	穂肥 1 回目			穂肥 2 回目		
		出穂前 日数	施用 時期	窒素成分 (kg/10a)	出穂前 日数	施用 時期	窒素成分 (kg/10a)
コシヒカリ	7月 29 日	18～15	7/11～7/14	1.0～1.5	10	7/19	1.0～1.5
新之助	8月 6 日	21～18	7/16～7/19	0.5～1.5	12～10	7/25～7/27	0.5～1.5

※育苗でコシヒカリ 5月 5 日、新之助 5月 15 日移植の場合の予想

※田植時期や気温で出穂期は変わる。必ず幼穂長を確認して施用する。

※施用時期や施肥量は、生育状況や葉色を確認して判断する。

（2）コシヒカリの穂肥対応

ア 分施体系

2 回目は、出穂期 10 日前までに確実に施用する。

イ 一発基肥栽培

葉色が淡い場合には、出穂期 10 日前をめやすに追肥する

ウ 分施・一発基肥栽培共通

2 回目の穂肥施用後も葉色値（SPAD 値）が 32～33 を下回ると予想される場合は、3 回目穂肥（追加穂肥）を検討する。

表 高温が予想される場合のコシヒカリの追加穂肥のめやす

栽培体系		判断時期・葉色（SPAD） のめやす	施用時期・窒素量 のめやす	用いる肥料
分施	一般栽培 （化学肥料栽培）	出穂期 3 日前 葉色 31 以下	出穂期 3 日前 1.0kg/10a	化学肥料
	特別栽培 （減化学肥料栽培）	出穂期 6 日前 葉色 33 以下	出穂期 3 日前 1.0kg/10a	有機 50%肥料
			出穂期 6 ～ 3 日前 1.0kg/10a	有機 100%肥料
一発 基肥	一般栽培 （化学肥料栽培）	出穂期の葉色が 32～33 を 下回ると予想されるとき	出穂期 10 日前 1.0kg/10a （追加穂肥）	化学肥料
	特別栽培 （減化学肥料栽培）	出穂期 10 日前頃 葉色 30 以下	出穂期 10～ 5 日前 2.0kg/10a （追加穂肥）	有機 100%肥料

（3）新之助の穂肥対応

出穂期の葉色が SPAD 値 35 程度になるように適切な穂肥を施用する

ア 2 回目穂肥時期と施用量のめやす（分施体系）

表 1 穂肥時期のめやす（分施体系）

	2 回目
時期	出穂期 12～10 日前 （出穂期 10 日前：止葉の葉耳とその 下の葉の葉耳が並んだ頃）

図 1 葉の出方による診断

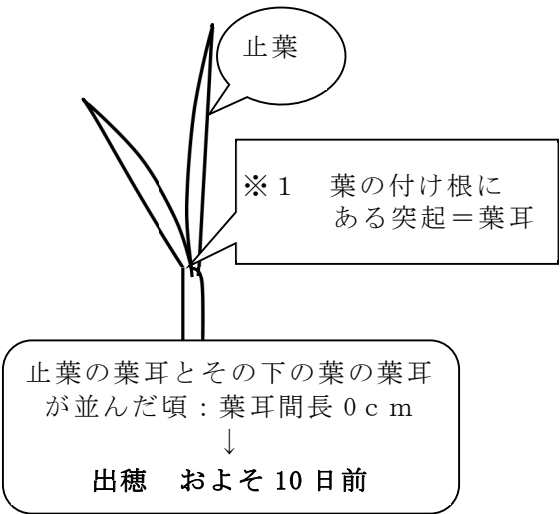


表 2 2 回目穂肥施用量の判断めやす

穂肥 2 回目施用時 の葉色（SPAD 値）	32.0 未満	32.0～ 34.5 未満	34.5～ 37.0 未満	37.0 以上
施肥窒素量 （kg/10a）	1.5	1.0	0.5	施用しない

（4）今後の水管理

米粒の肥大を確保するため、出穂 25 日後まで飽水管理を継続する。

異常高温やフェーン現象となる場合は、速やかに湛水し稲体の障害発生を防ぐ。

ただし、長期間にわたる湛水は避け、ほ場の水温上昇を抑えるため可能な限りこまめな水管理を行う。